

「ジャパン・クラウド・コンソーシアム」 水産業クラウド検討WG キックオフ

2011年9月12日(月) 10:30 ~ 12:30



キックオフ・アジェンダ

	時間(目安)	テーマ	内容	所要時間 (分)	スピーカー
1	10:30-10:35	ご挨拶	水産業クラウドWGに向けたご挨拶	5	日本アイ・ビー・エム(株) Smarter Cities CTO 岩野 和生 執行役員
2	10:35-10:45	WG目的と概要	WG目的・概要のご説明	10	日本アイ・ビー・エム(株) 官公庁IBDT. SC推進担当 加茂 義哉
3	10:45-11:15	メンバーご紹介	メンバー皆様からの自己紹介	30	全員
4	11:15-11:40	水産業事例ご紹介①	ノルウェイモデルのご紹介 (仮タイトル)	25	三重大学 生物資源学部 生物圏生命科学科 准教授 勝川 俊雄 様
5	11:40-12:05	水産業事例ご紹介②	鮮魚の達人 自己紹介と これからの取り組み	25	有限会社 鮮魚の達人 代表取締役 山根 博信 様
6	12:05-12:30	今後の進め方(案) ご提案	WG進め方(案)のご提案 - 活動内容・体制・スケジュール	25	日本アイ・ビー・エム(株) AIS. スマーターコマース事 業開発 末次 信治



水産業クラウドWGに向けたご挨拶

日本アイ・ビー・エム(株) Smarter Cities CTO
岩野 和生 執行役員



WG目的と概要について

日本アイ・ビー・エム(株)
官公庁IBDT. SC推進担当
加茂 義哉

1.WGの概要

目標

- ・ICT、クラウドを活用した新しい水産業ビジネス・モデル(スマーターフィッシュ)を構築し、日本の水産業の高収益化、ブランド競争力の向上に資する。
- ・消費者にとって安心・安全な「水産物」の流通、提供の仕組みを検討し、具現化する。

課題認識

水産業は、日本の沿岸部地域における重要産業であり、長い歴史の中で日本固有の食文化を支えてきた産業である。近年の食文化の多様化や震災の影響が残る状況において、水産業の復興及び強化の実現が求められている。

具体的検討項目

STEP1:情報収集

- ・漁業関係者、水産加工会社、物流会社、海外協力団体等から、現状の業務状況と課題をヒアリングしまとめる。あわせて、消費者からの魚文化への意見・要望の情報収集を行う。

STEP2:課題検討

- ・ヒアリング結果をもとに、クラウドサービスを利用する領域と方針を検討する。
- ・サービス普及推進の方法について検討する。

STEP3:具体化

- ・ICT、クラウドを活用したスマーターフィッシュ実現のための実証事業の検討
- ・次世代水産業ビジョンの策定

導入効果(目標)

- ・日本の水産業における高収益化、ブランド競争力の向上を通じて、経済の活性化を図る。

2. WGの詳細

関連要素技術、サービス、システム

- ・普及促進、ビジネスモデル等の検討
- ・ICTを活用したSCMの構築、トレーサビリティのための仕組み、技術的インターフェースの検討等

グローバル化関連

最先端のICT、クラウドを活用した水産業ビジネスモデルを具現化し、日本の水産業の国際競争力を高め、日本ブランドの強化を図る。

実施体制、役割分担

幹事

日本アイ・ビー・エム株式会社

事務局

(検討中)

メンバー

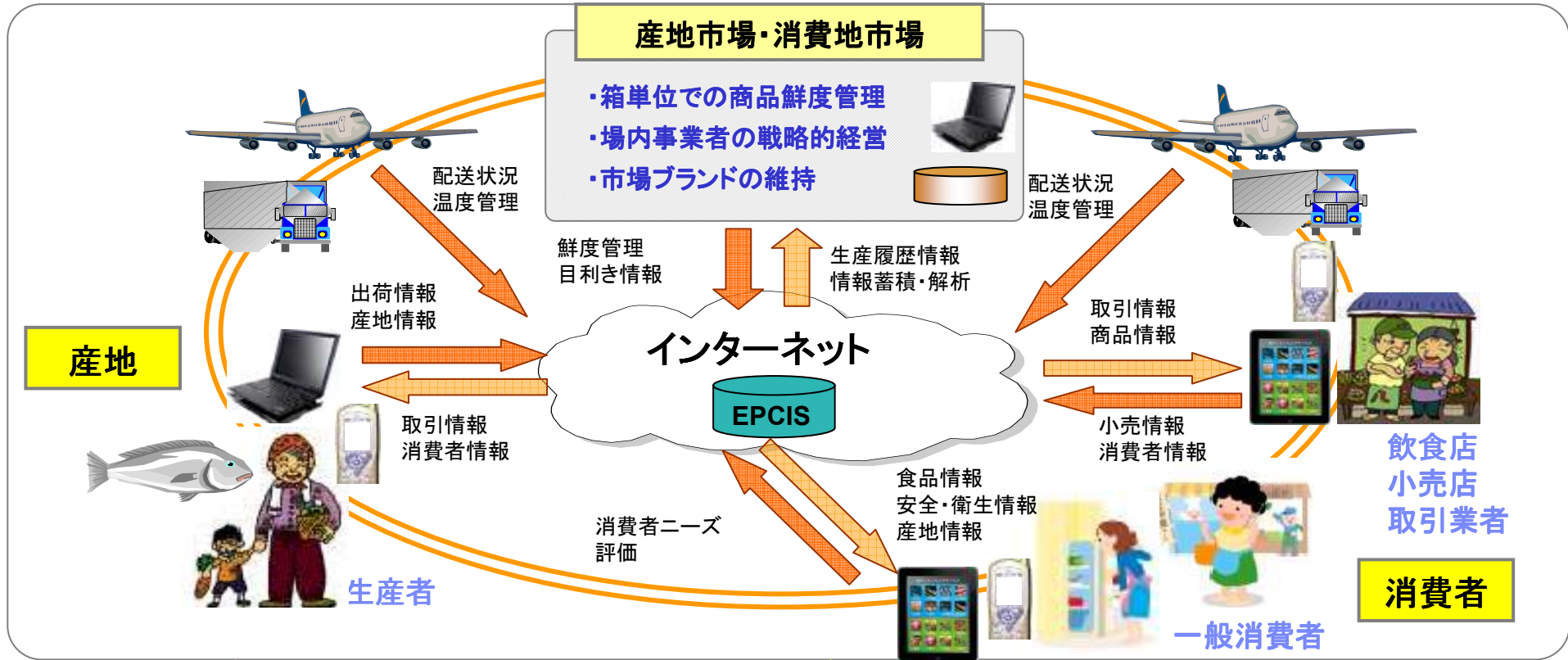
漁協関係者、水産加工会社、物流会社、大学、自治体、関連団体、クラウドサービス企業 等

期待される成果と報告内容

- ・ ICTによる水産業ビジネスモデルの提言と、そのために必要な制度改革や規制緩和の提案
- ・ 具体的なクラウドサービスの適用範囲と技術的検討
- ・ 実証事業による検証の提案

3. ゴールイメージ (1)

- スマートフィッシュ・ネットワーク



関連事業者の支援サービス

- ・情報発信サービス
- ・決済サービス

ヒト、モノすべてがつながるネットワーク

- ・ソーシャルネットワーク (ヒトのつながり)
- ・商品の荷動きや保冷状況の見える化 (モノのつながり)

「安心・安全」の実現

- ・HACCP管理システム
- ・トレーサビリティシステム

3. ゴールイメージ (2)

鮮魚流通デジタルコミュニティ


- 飲食店、小売店、消費者は、お店や自宅から産地の旬で美味しい鮮魚をいつでも簡単に注文できる 【利便性】
- 一つ一つのモノと一人一人のヒトの結びつきで、新しい個客体験から「感動」と「共感」が得られる 【価値共創】





WGメンバーご紹介


メンバー構成(配布資料)参照



水産業事例ご紹介①

ノルウェイモデルのご紹介(仮タイトル)

三重大学
生物資源学部 生物圏生命科学科 准教授
勝川 俊雄 様



水産業事例ご紹介②
鮮魚の達人 自己紹介と
これからの取り組み

有限会社 鮮魚の達人
代表取締役 山根 博信 様



WG今後の進め方(案)ご提案

日本アイ・ビー・エム(株)
AIS. スマートコマース事業開発
末次 信治

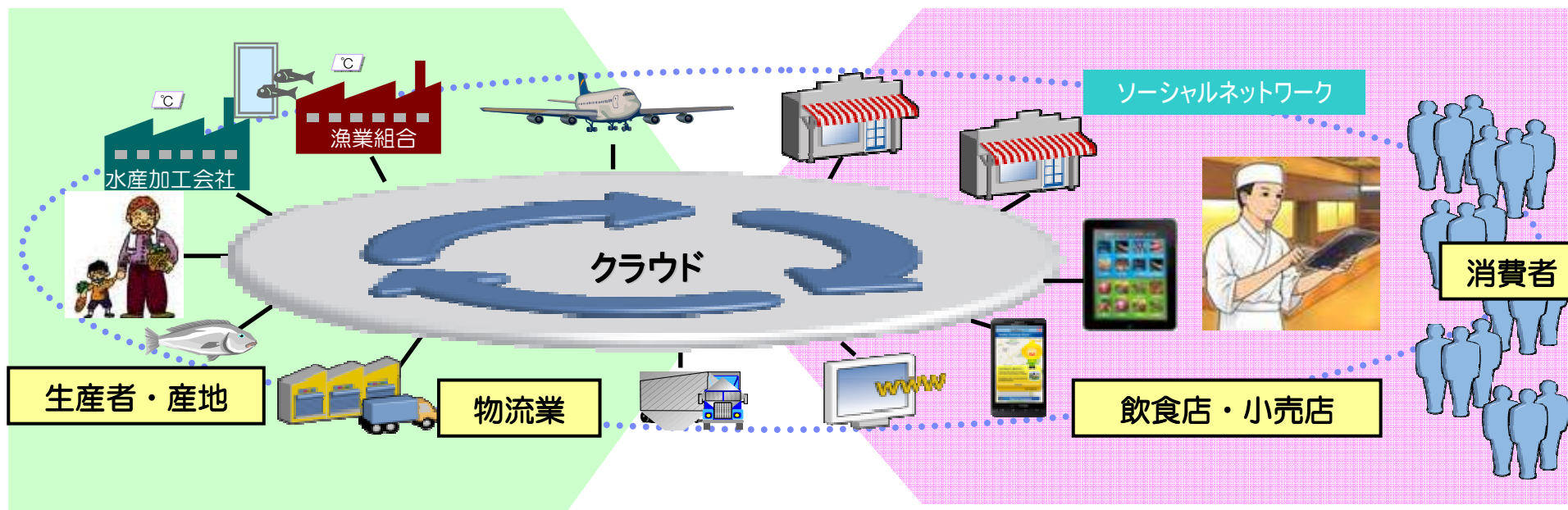
議論を深め、より専門性の高いアウトプットを目指すために、いくつかのサブワーキンググループ(SWG)に分けて議論し、SWGごとに報告内容を取りまとめ、全体で共有し、中間報告、最終報告にまとめていく方向で進めることをご提案します。

SWGの分け方案として、鮮魚は漁から販売の末端まで非常に広い領域からなるので、大きく3つのSWG議論・検討を行い、ICTを活用した改善・解決策を検討する。

- ①水産全体のテーマとして次世代の水産業のありかたを考える
- ②生産者から見た、漁、市場、流通のありかたを考える
- ③消費者・需要家から見た、流通・販売のありかたを考える

■①次世代型「日本の水産業ビジョン検討」SWG

- ノルウェイモデルを参考に、ICTを活用した日本型To Beモデルを描き政策提言



■②入口(生産者)「水産業の流通/サプライチェーン改革提案」流通SWG

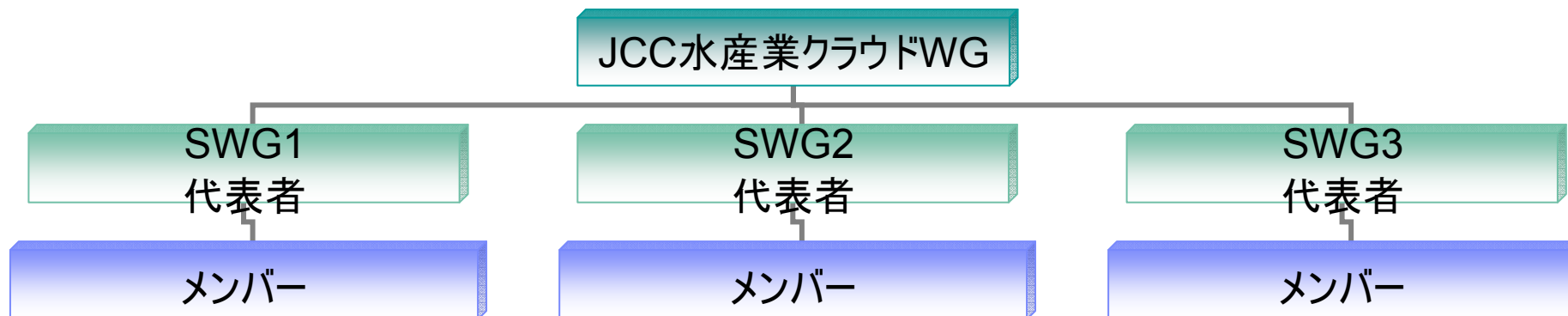
漁業資源管理、実態把握のしくみや流通把握システム化についての研究

- サプライチェーン改革
- トレーサビリティ機能のありかた
- 加工・生産管理(HACCP対応)

■③出口(コマース)「新しい水産業のマーケティング検討」SWG

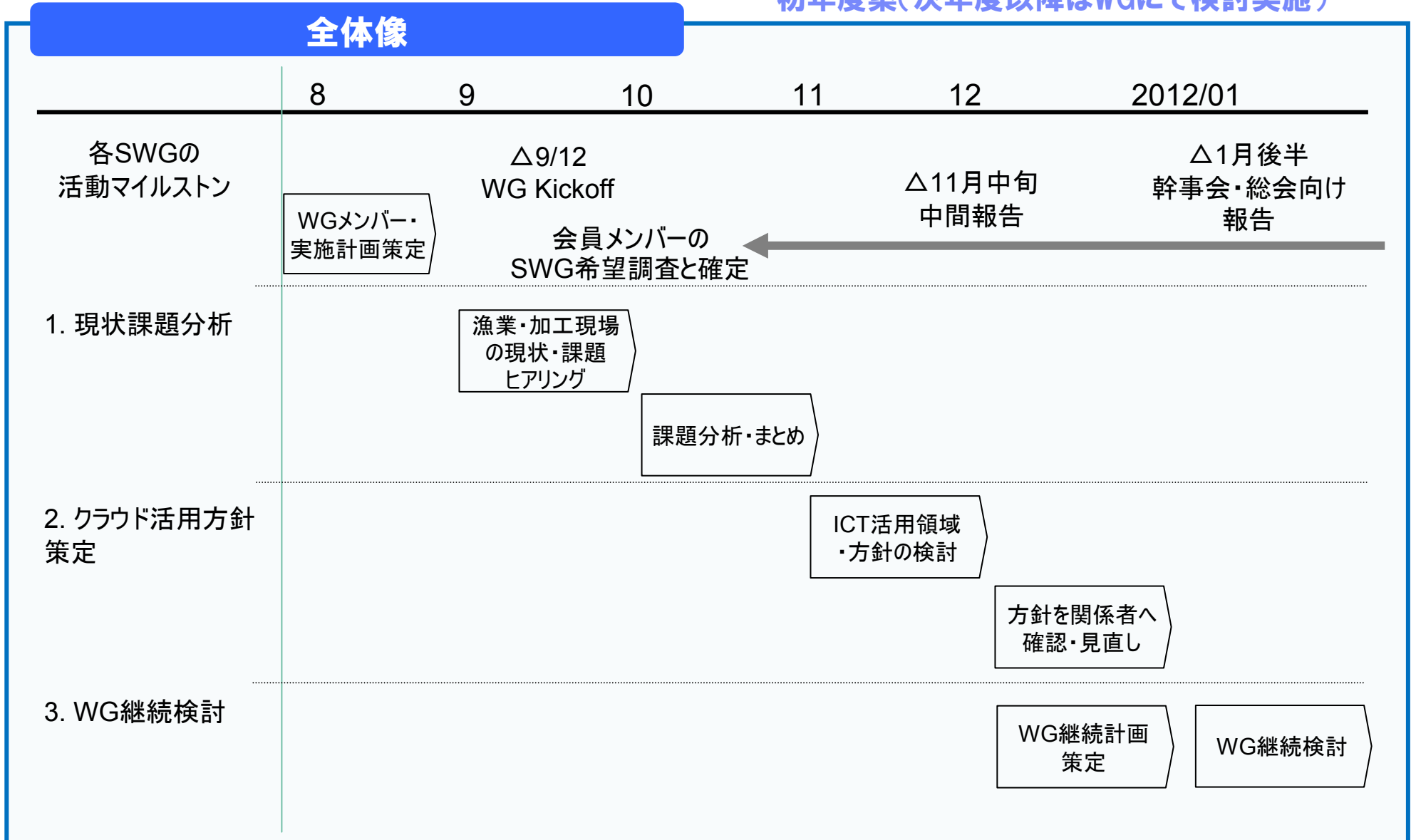
大手流通に頼らない新たな出口の新しいコマースモデルの検討・研究- 風評被害への対応。

- ソーシャルNWを使ってどう消費者に情報発信をしていくか。
- 付加価値を高める。トレーサビリティとビジビリティ。見える化。どう情報発信するか。



- ▶ WGに3つのSWGにおいて、それぞれ活動を行い資料を取りまとめる。
- ▶ 事務局機能はWGに置き、各SWG代表者はコミュニケーションをとりながら歩調を併せる。
- ▶ IBMからは各SWGにメンバーとして1名参加します。

初年度案(次年度以降はWGにて検討実施)



今後のスケジュール

- 9月12日(月) ▲ 公式キックオフ
- 9月13日(火)～9月16日(金) SWG希望受付
(※事務局: JCCFISH@jp.ibm.comまでご連絡ください)
- 9月26日(月) ▲ SWG決定のお知らせ(※事務局より)
- 9月第5週～11月第2週 ▲ SWG毎の活動(※7週間)
- 11月14日(月)～18日(金) SWG中間報告
- 2011年1月後半 幹事会・総会向け 報告

September							October							November						
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
			9/1	2	3	4						10/1	2	31	11/1	2	3	4	5	6
5	6	7	8	9	10	11	3	4	5	6	7	8	9	7	8	活動期間	10	11	12	13
12 ▲	13	14	15	16	17	18	10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20
キックオフ	← 参加希望SWG受付 →							活動期間						← 中間報告(実施時期未定) →						
19	20	21	22	23	24	25	17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27
26	27	28	29	30			24	25	26	27	28	29	30	28	29	30				

参加希望WG決定お知らせ

▲ 全員参加の会議体

✉ 事務局より通知